

「エベレスト街道から眺める山々、ミャンマー最高峰カカボラジ (5,881m) の道」

NHK スペシャル 〈 幻の山 カカボラジ〜アジア最後の秘境に行く (2014 年) 〉 登山
隊長、山岳ガイド、登攀クラブ蒼氷、エベレスト (8,488m) 9 回登頂
倉岡 裕之

倉岡裕之さんのホームページ及び [Biography | 倉岡裕之・高所登山ガイド \(hiroyuki-kuraoka.com\)](#) から転載し、編集しました。カカボラジについては、参考文献から一部を転載しました。(編集責任：雲南懇話会 前田栄三)

1. プロフィール

- 1961 東京都で生まれる。その後、千葉県我孫子市に移り、小中学生時代を過ごす。
- 1976 中学 3 年のときに独学で登山を始める。
- 1983 ネパールで初めてのヒマラヤ登山
- 1984 ベネズエラのエンゼルフォールの登攀に成功
- 1985 映画「植村直己物語」のスタッフとして、北米アラスカに入る。
世界 7 大陸最高峰の一つである北米最高峰デナリに登頂。エベレストを初めて訪れる
- 1996 ヒマラヤの高峰での仕事を始める
- 2003 8000 メートル峰のガイドが本格化する
- 2004 ガイドとして臨んで、エベレスト初登頂 2006 世界 7 大陸最高峰の登頂を達成
- 2013 プロスキーマー、三浦雄一郎のエベレスト遠征に登攀リーダーとして参加。当時 80 歳の登頂を成功に導く
- 2018 エベレスト 9 回目の登頂を果たす
- 2019 三浦のアコンカグア遠征に参加

2. 年代別主なガイド歴 (一部登攀歴を含む)

- 1984 年 11 月 23 日 - サルト・アンヘル (エンゼルフォール) [左壁]
(未踏ルート/ベネズエラ) 初登攀 (木本哲, 小林春好, 倉岡裕之)
この登攀はテレビ東京「驚異・失われた世界」で放送された。
- 1985 年 4 月 - マッキンリー (6,194m/アメリカ) 登頂
(植村直己物語撮影隊: 木本哲, 倉岡裕之他)

- 1985年5月 - マッキンリー南壁アメリカンダイレクト、アルパインスタイル第3登 (木本哲, 倉岡裕之)
- 2003年9月27日 - チョ・オユー (8,201m/チベット) 無酸素ガイド登頂 (ヒマラヤンエクスペリエンス隊)
- 2004年5月23日 - エベレスト[北稜] (8,848m/チベット) ガイド登頂 (ヒマラヤン・エクスペリエンス隊)
- 2005年1月12日 - ヴィンソン (4,897m/南極大陸) ガイド登頂
- 2006年10月2日 - チョ・オユー (8,201m/チベット) ガイド登頂 (ヒマラヤンエクスペリエンス隊)
- 2007年3月26日 - カルステンツ・ピラミッド (4884m/インドネシア) ガイド登頂。七大陸最高峰登頂
- 2007年5月22日 - エベレスト[北稜] (8,848m/チベット) ガイド登頂 (ヒマラヤン・エクスペリエンス隊: 倉岡裕之)
このとき同時登頂した柳沢勝輔はエベレスト登頂世界最高齢記録更新 (71歳 61日) [1]
- 2008年5月21日 - マナスル (8,163m/ネパール) ガイド登頂
- 2009年5月23日 - エベレスト[南東稜] (8,848m/ネパール) ガイド登頂 (ヒマラヤンエクスペリエンス隊)
- 2009年9月28日 - マナスル (8,163m/ネパール) 登頂 (ヒマラヤン・エクスペリエンス隊)
- 2010年5月22日 - エベレスト[南東稜] (8,848m/ネパール) ガイド登頂 (ヒマラヤン・エクスペリエンス隊)
- 2010年10月3日 - カメット (7,760m/インド) ガイド登頂
- 2011年5月20日 - エベレスト[南東稜] (8,848m/ネパール) ガイド登頂 (ヒマラヤンエクスペリエンス隊)
- 2013年5月23日 - エベレスト[南東稜] (8,848m/ネパール) ガイド登頂 (ミウラエベレスト2013隊: 三浦雄一郎, 三浦豪太, 倉岡裕之, 平出和也)
このとき同時登頂した三浦雄一郎はエベレスト登頂世界最高齢記録更新 (80歳 223日) [2]
- 2013年9月25日 - マナスル (8,163m/ネパール) ガイド登頂 (ヒマラヤンエクスペリエンス隊)
- 2016年5月20日 - エベレスト[北稜] (8,848m/チベット) ガイド登頂 (倉岡ガイド隊)
- 2016年10月 - チョー・オユー (8,201m/チベット) ガイド登頂 (倉岡ガイド隊)
- 2016年12月 - ヴィンソン (4,897m/南極大陸) ガイド登頂
- 2017年5月27日 - エベレスト[北稜] (8,848m/チベット) ガイド登頂 (倉岡ガイド隊)

- 2017年5月 - デナリ（マッキンリー）（6,194m/アメリカ）登頂
- 2017年以降・・・・

3. 山別・主なガイド（登頂成功のみ、ヘリスキーなどは除く）

- ◆エベレスト北側5回、南側4回（8848m ネパール・中国国境）
- チョーオユー3回（8201m ネパール・中国国境）
- マナスル3回（8156m ネパール）
- カメット（7756m インド）
- ムスターグアタ（7546m 中国）
- レニン峰（7134m キルギスタン、タジキスタン国境）
- スパンティーク（7027m パキスタン）
- ハンテングリ峰（7010m カザフスタン、キルギスタン国境）
- ◆アコンカグア 14回（6962m・アルゼンチン：南米最高峰）
- ▲オッホスデルサラード 2回（6893m・チリ最高峰）
- アマダブラム（6812m・ネパール）
- カンテガ（6782m・ネパール）
- ワスカラン（6768m・ペルー）
- チンボラソ 3回（6268m・エクアドル）
- ◆デナリ 個人登山も含め5回（6190m アメリカ合州国：北米最高峰）
- ※南壁アメリカンダイレクト、アルパインスタイル第3登（個人的です
- 1985年 ※1984年映画「上村直己物語」山岳スタッフとして4月に登頂
（頂上の気温=-60℃ !!!）
- アイランドピーク（6189m・ネパール）
- リカンカブール（5920m・ボリビア）
- コトパクシ（5897m・エクアドル）
- ◆キリマンジャロ 3回（5895m・タンザニア：アフリカ最高峰）
- ◆エルブルース 10回以上（5642m・ロシア：ヨーロッパ最高峰）
- オリサバ 2回（5636m・メキシコ）
- ポポカテペトル（5426m・メキシコ）
- ▲ディクタウ（5205m ロシア：ヨーロッパ第2の高峰）
- ▲ケニヤ山最高峰パティアン 6回（5199m・ケニヤ）
- ケニヤ山第二高峰ネリオン（5188m・ケニヤ）
- ルウェンゾリ（5109m・ウガンダ）
- ピコボリーバル（5007m ベネズエラ最高峰）
- ◆ビンソン 7回（4892m・南極：南極最高峰）

- ◆カルステンツピラミッド7回(4884m・パプア、インドネシア：オーストラレイシア最高峰)
 - ウシュバ(4710m・ゲルジア)
 - フィテン 2回(4374m モンゴル、ロシア、中国国境：モンゴル最高峰)
(1回はスノーボード滑降)
 - ポベータ(3000m強・ロシア：東シベリア最高峰)
 - ネブリナ(3014m ベネズエラ、ブラジル国境：ギアナ高地最高峰、ブラジル最高峰)
 - ロライマ5回以上(2810m、ベネズエラ、ブラジル、ガイアナ国境：ギアナ高地)
 - チマンタ(2550m ベネズエラ：ギアナ高地)世界初登頂
 - アウヤンテプイ 3回(2535m ベネズエラ：ギアナ高地)※因みにエンジェルフォール初登攀です(1984年)。テレビ東京
 - コジオスコ(2228m・オーストラリア)
- (※◆はセブンサミッツ、▲は第二セブンサミッツ)

4. カカボラジ関係、参考資料

- (1) 季報ヒマラヤ474号(p30)、中村保・倉知敬「ミャンマー北部山群の探検登山史ーキングドン・ウォード初期踏査から近年のガムランラジ及びカカボラジ登攀記録までー」

(尾崎隊の)次のカカボラジ挑戦は、民主化運動に抗し閉鎖政策を採ってきた軍事政権が安定化して開国策に転じた後、2014年に相次いで北面の谷を訪れた3隊によって為される。

まず同年夏にミャンマー隊が入山したが、8月31日頂上を目指した2人の隊員が行方不明になるというアクシデントが発生、2ヶ月にわたるヘリコプター投入の政府支援の捜査の末、BCへ物資運搬のヘリ墜落操縦士事故死という事件併発。捜索の成果無いまま終わったようだが、それ以上の情報不明である。

同年秋、期せずして2隊が相前後して同じ西稜ルートに登る。1つはNHK後援の3人編成日本隊。9月15日プタオを出発して、10月12日北面の谷4000米にBC設営、西稜に突き上げる谷を詰めて西稜伝いに登頂を目指す新ルートを探った。5000米にC1、5400米にC2設営と進めたが、西稜は尚も長く、先に深いギャップがあつて通過は相当困難であると判り、5670米地点で引返した。(同隊の記録はNHKテレビで放映されている。)

もう1つは、H・オニール率いるアメリカ隊(6人編成、ナショナル・ジオグラフィック)。

(2) ナショナル・ジオグラフィック 2015年9月号より



- **B!** ミャンマーのジャングルにそびえる険しい岩峰。東南アジア最高峰とされる山頂を目指した登山家たちは、悪戦苦闘の末、生死を分かち決断を迫られた。

文=マーク・ジェンキンス／写真=コーリー・リチャーズ

中国、ミャンマー、インドの国境に連なるダンダリカ山脈は踏査されていない場所が多く、謎に包まれている。そんな謎の一つが、ミャンマー北部にそびえるカカボラジの標高だ。東南アジアの最高峰とされているが、GPSによる測量はこれまで行われたことがない。この問題を決着させるべく、2014年秋、私たちナショナル ジオグラフィックの登山隊が登頂に挑むことになった。

ところが、私たちが米国を出発する3週間前の9月10日、新聞に思いがけない見出しが載った。

「ミャンマーで消息を絶った登山隊の捜索が始まる」

ミャンマー人の登山隊が自国の最高峰に登頂するべく登山を開始していたが、出発から2週間後、隊員の2人が山頂付近で信号を発したのを最後に、連絡が途絶えたという。

さらに、捜索隊の物資を運んでいたヘリコプターのうち、操縦士2人と補助員1人を乗せた1機が行方不明になってしまった。9日後に補助員がジャングルから自力で脱出して機体の位置が判明し、操縦士も見つかったが、1人は重いやけどを負い、もう1人は死んでいた。長い間、息をひそめていたカカボラジが、わずか1カ月で3人の命を奪ったのだ。

東南アジア最高峰は別の山？

ミャンマーが突然カカボラジに注目した背景には、近くにそびえる別の高峰をめぐる近年の動きがあっただろう。2013年、アンディ・タイソン率いる米国・ミャンマー混成隊が、カカボラジの近くにあるガムランラジへの登頂に挑

戦した。ロシアが作成した新しい地形図と衛星画像を綿密に調べたタイソンは、ガムランラジこそが最高峰ではないかと考えたのだ。

タイソンの登山隊は、同年 9 月にガムランラジ初登頂を成功させた。高精度の GPS 装置で測った標高は 5870 メートル。1925 年に英国隊が測定したカカボラジの標高は 5881 メートルなので、それより 11 メートル低いが、ロシアの測量隊が 1970 年代と 80 年代にはじき出した 5691 メートルよりは高い。

「ガムランラジの方が高いなんて、ミャンマー人は絶対認めようとしなないんだ」。

カカボラジはミャンマーの象徴であり、国民があがめてやまない山だ。その最高峰の地位に外国人が疑問を投げかけたために、ミャンマー人の反発を買ったと、2014 年にタイソンは話していた（彼は 2015 年 4 月に飛行機事故で死亡した）。

つまりミャンマー隊は、国の威信を懸け、カカボラジが自国の最高峰であることを証明する任務を帯びていたのだ。山頂手前で消息を絶つ直前、彼らが GPS で測定した標高は 5790 メートルだった。

※この続きは、ナショナル ジオグラフィック 2015 年 9 月号でどうぞ。

以上です。